

第2回 小牧市地域包括ケア推進計画策定委員会 意見交換会まとめ

A グループテーマ 「サロン」
サブテーマ
<ul style="list-style-type: none"> ● サロンが地域のたまり場になるようにするには ● どうしたら多世代が集えるような場になるか
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共働き世代の参加に課題があり、「こどもの長期休暇」に合わせたイベント開催により親子での参加を促すべき ・ 学校教育の場で周知することが大事 ・ 行政や社会福祉協議会が活動の方向性を絞りすぎると「居心地のよさ」が損なわれる恐れがある
B グループテーマ 「複合的な課題の解決支援」
サブテーマ
<ul style="list-style-type: none"> ● サービスにつながらない人へどのようにアプローチしたらよいか？ ● 8050 問題や多問題を抱えた潜在的な要支援者をどのように掘り起こし、支援していけるか？
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスをシンプルにわかりやすく伝えていくべき ・ サービスをニーズに応じて見直していくべき ・ 「心を開ける人を1人でもつくる」ことができる仕組みづくりが必要 ・ サービスや支援を拒否する場合は、拒否に至った背景を考えて支援をする必要がある ・ ヤングケアラーは子どもが助けてほしいと言えない雰囲気があり、先生も気付けていないケースがある
C グループテーマ 「地域福祉や福祉サービスの情報提供」
サブテーマ
<ul style="list-style-type: none"> ● 若い人や新しい人の参加を促すため、どのような仕掛けをしたら地域福祉活動へ参加してもらえるか？ ● どのような方法、手段で PR したら、福祉サービスの情報が多くの人にいきわたるか？
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の協力を得て、退職前の勤労世帯に地域福祉活動を P R してはどうか ・ スーパーや銀行等の日常生活で目に留まる場所で P R してはどうか ・ 若い人が集まるイベントで動画へ誘導する二次元コードが記載されたチラシを配布するのはどうか ・ SNS 等様々な媒体も含めて、困ったときにアクセスしやすい環境をつくる必要がある ・ 第二層の生活支援コーディネーターは、若い人や新しい人の協力を得る方法について意識しながら活動することが必要
その他の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の中で、「増やす目標」ばかりではなく、「減らす目標」があってもよいのではないか。